



～生育は早い。適切な水管理を！～

7月	中旬	下旬	8月上旬
日	15 20	25 31	1 5 10
生育	幼穂形成期 11葉期	減数分裂期 12葉期	出穂期 最終落水は出穂30日後
水管理	間断かん水 ※あきたこまちRの場合	湛水管理	間断かん水
	間断かん水	湛水管理 (カドミウム吸収抑制対策)	
	カドミウム吸収抑制対策の湛水管理は8月下旬頃まで		
作業	★斑点米カメムシ類対策 畦畔草刈り	草刈り禁止期間*	薬剤防除
	※出穂10～15日前から収穫2週間前まで。ただし出穂期10日後頃の薬剤散布後7日以内に一度草刈りを実施する。		
	★穂もち防除を実施する場合		
	① コタツプ 剤又はゴウケツ粒剤を散布		
	② トライフロアブル又はビーム剤	＋ トライフロアブル又はラブザイト 剤	

1 7月15日現在の生育状況 ～ 草丈は依然長く、茎数は少ない ～

○7月15日現在の生育は、草丈は平年比118%とかなり長く、茎数は平年比80%でほ場間差がありますが、かなり少なくなっています。葉数は平年差+0.5葉と進み、全調査ほ場で幼穂形成期を過ぎています。葉色は平年比102%と平年並です。

○仙台管区气象台が令和7年7月10日に発表した東北地方の1か月予報（7月12日～8月11日）によると、向こう1か月の気温は高い見込み、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込みとなっています。

表1. 7月15日の水稻定点調査結果（農業振興普及課）

	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	SPAD
本年	73.1	479	11.7	43.5
平年	61.7	598	11.2	42.6
平年差 (%・±)	118%	80%	+0.5	102%

(あきたこまち・管内5地点)

2 水管理 ～ カドミ対策の湛水期間は出穂3週間前から ～

あきたこまちR以外の品種では、従来どおりカドミウム吸収抑制対策として、出穂前後各3週間の湛水管理を徹底してください。例年より生育の早いほ場が多くなっています。生育の進みに合わせて、湛水開始を早めてください。

○倒伏が懸念されるほ場では、落水期間がやや長めの間断かん水としてください。

○減数分裂期から穂ばらみ期にかけて低温時（平均気温20℃以下、最低気温17℃以下）には、深水管理（可能なら17～20cm）としてください。

JA・主食集荷商業協同組合加入業者以外の集荷業者や消費者への直接販売をしている方は、ご自身の責任で確実に玄米カドミウム濃度を分析し、安全な米の販売を行ってください。



3 追肥 ～ 幼穂形成期の生育・栄養診断を実施しましょう ～

幼穂形成期（幼穂2mm）の極端な葉色低下は、1穂粒数の減少・有効茎歩合の低下を招きます。すでに幼穂形成期を過ぎたほ場も多く見られます。表を参考に生育・栄養診断を実施してください。

注）あきたこまち、目標収量570kg/10a

生育型	生育過剰	理想的な生育	生育不足
草丈（cm）	65 cm以上	60～65 cm	60 cm以下
葉色（SPAD502） （葉色板）	42以上 （5.5以上）	39～42 （4.5～5.5）	39以下 （4.5以下）
追肥 （N成分）	幼穂形成期	なし	ムラ直し1 kg/10a
	減数分裂期	なし	1～2 kg/10a
		1～2 kg/10a	1～2 kg/10a

図1 幼穂形成期の生育による追肥の診断（暫定案）

- 幼穂形成期に草丈65cm以上で葉色が濃い場合は、穂肥は控えます。
- 幼穂形成期に草丈60～65cmで、葉色の低下が見られる場合は、減数分裂期（葉耳間長±0cm、7月25日頃）主体の追肥を実施します。
- 幼穂形成期に草丈60cm以下で、葉色が低下している場合は幼穂形成期（7月15日頃）と減数分裂期（7月25日頃）の追肥を実施します。
- 一発型の肥料を施用した場合は、基本的には追肥は控えるようにします。

4 病虫害防除 ～ 畦畔等の草刈を徹底して斑点米カメムシ類を抑制 ～

★飼料用米も主食用米と同様に防除対策を行ってください★

①斑点米カメムシ類

- 畦畔や農道等の草刈りは、出穂10日前までに徹底し、イネ科雑草の除去に努めます。
- 水田内にホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの残草があると、アカスジカスミカメの侵入を助長するので、水田内の雑草対策を徹底しましょう。

②いもち病

- BLASTAM（アメダス）の判定では、管内では7月15日までに感染好適条件は観測されていませんが、7月5日に準好適日がありました。また、秋田県病虫害防除所より7月11日に防除対策情報が発表されています。ほ場の見回りにより葉いもち病斑を発見したら、直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス）を散布してください。
- 葉いもちが多発しているほ場では、出穂15～7日前にコラトップ剤またはゴウケツ粒剤（サンブラス粒剤）を散布するか、出穂直前にビーム剤またはトライフロアブルと穂揃期にラブサイド剤またはトライフロアブルで茎葉散布を行います。

③ごま葉枯病

- 過去にごま葉枯病の発生があり、「秋落ち」が認められるほ場では、出穂直前と出穂期にブラシンフロアブルまたはノンブラスフロアブルを散布してください。また、発生履歴がないほ場でも、幼穂形成期～穂ばらみ期に発病が見られた場合は、出穂直前と穂揃期に防除を行ってください。

！今後も高温の予報！作業前に「熱中症特別警戒情報」等の発表を確認しましょう！

あきたこまちRを紹介しています！
紹介ページはこちら



※クマにご注意下さい
クマに関する情報はこちらから



熱中症対策には環境省の熱中症予防情報サイトを活用下さい

